

## 事例6 「生活の中にある言葉を、観点をもって収集することで、語彙を豊かにするとともに、語感を磨くこと」をねらった事例

○学年 第2学年

○主な領域 [知識及び技能] (1)言葉の特徴や使い方に関する事項

○事例のポイント

- ①個人で集めた言葉を学級単位でまとめ、読み合うことで語感を磨き、語彙を豊かにする。
- ②成果物としての語彙集を作成することによって、学習成果に実感をもてるようにする。
- ③ICT端末を活用し、閲覧や編集を円滑に進められるようにする。

### ICTを活用した主な学習場面

- ・語彙を収集、閲覧する場面
- ・グループや全体で考えを交流する場面

### ICT活用の利点

- ①集めた言葉の記録、閲覧、編集が容易になる。
- ②グループで出た意見を可視化し、全体で共有しやすくなる。

## 1 単元名・教材名 ほめ言葉の研究 ―他者を評価する言葉を集めて語彙集を編集しよう― 「語彙を豊かに」

## 2 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒はこれまでに帯単元として日頃の読書生活の日記をつけたり、使いたい言葉や読みたい本を書き留めたり、あるいは、書評や本の広告を切り抜いたりと様々な方法で、読書を通して語彙に触れる学習を行ってきた。意識されなければ生活の中で通り過ぎてしまう言葉を、今一度意識して見つめ直すことで、言葉のもつよさに気づき、そして、言葉を意識的に集めることの難しさを、学習を通して実感してきた。

本単元では、こうした学習体験を積んできた生徒たちに、読書からさらにもう一步踏みこんで、生活の中にある言葉、特に、他者を称賛したり肯定したりする評価語彙に目を向けられるようにしていく。そして、それらの語彙を集団で共有できるようにしたい。評価語彙に目を向け、学習することで、国語の授業で学んだことが学校生活で、さらには今後の社会生活を生きる上で重要な意味をもつと考える。

本単元で用いる教材は[知識及び技能] (1)エ「抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」をねらいとした教材を用いるものである。そうした教材のねらいを、本単元では他者を称賛する言葉を通して、学習者である生徒たちが自らの手で語感を磨きながら語彙を獲得していく実践として試みるものである。他者を称賛するという行為は私たちが生活を営む中でごく当たり前に行われる行為ではあるものの、実際には、人格や行動、能力、努力など称賛する対象によって同じような意味でも、場面や対象によって適切な言葉の選択が行われなくてはならないと考える。

指導に当たっては、これまでの学習を生かしながら、生徒たちの関心や興味を喚起し、生徒自らが取り組みたいと思えるような導入を図る。生徒の主体性を引き出しながら、言葉を①収集、②編集、③共有という段階を踏み、学級単位でほめ言葉を集めた語彙集を作成していく。学級単位とすることで、個人の学習が集団に活かされ、結果、集団における社会生活の向上に繋がるのである。このようなほめ言葉の語彙集を作成する一連の過程でICT端末も積極的に活用していく。具体的には、語彙を集める段階や語彙の説明などを編集する段階での活用が想定される。例えば、ICT端末を活用することにより、話し合いの際にグループ内で出た意見を即座に入力し、参照しながら意見を交わすことや、紙に書く場合よりも容易に加除修正を繰り返しながら文章を整えることが可能になる。このことは生徒の言語能力を育むのに効果的であると考えている。

以上のことから、一連の学習活動を通して生徒の言語感覚を磨き、語彙を豊かにしていきたいという思いの下、単元を設定した。

### 3 単元の目標

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。  
〈知識及び技能〉(1)エ
- (2) 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて文章を整えることができる。  
〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 本単元における言語活動

生活の中から見つけた語彙を整理したり、編集したりする活動。(関連：言語活動例ウ)

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ	①「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて文章を整えている。(B(1)エ)	①読み手の立場に立って、伝わりやすい表現について粘り強く考え、文章を整えようとしている。

### 6 指導と評価の計画 (全4時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を捉える。</li> <li>○教師による例とそれに関連する話を聞く。</li> <li>○言葉を集める観点をもつ。</li> <li>○新聞や本、マンガなどの資料から言葉を集める。</li> <li>○表計算ソフト(Google スプレッドシートなど)を用いて記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通し</li> <li>○ほめ言葉の例</li> <li>○言葉の探し方</li> <li>○言葉の記録の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体例をなるべく多く示し、学習の具体的なイメージの共有を図る。</li> <li>○集めた言葉を記録する際には、①使用例、②使われた場面、③氏名も合わせて記録するよう働きかける。</li> <li>○話し言葉と書き言葉の違いにも触れられるとよい。</li> <li>○表計算ソフトにはあらかじめ、言葉を分類する観点を示しておき、生徒は入力段階で分類できるように示す。</li> <li>○第1時と第2時の間を一定期間とり、生徒の家庭学習で語彙を集めるようにすることも考えられる。</li> </ul>

編 P36 指導計画作成の留意事項(9)

**ICT活用の利点①**  
集めた言葉は随時共同編集によって相互に閲覧できるようにする。

**事例のポイント①**

相互に集めた言葉を読み合うことで、言葉に触れる機会を生み出し、語彙を豊かにしていく。

○集めた語彙のリストから、クラスで作る語彙集に加えたい言葉を検討する。

○語彙を選ぶ観点  
○他者の意見  
○説明の仕方

○表計算ソフト (Google スプレッドシートなど) を閲覧しながら、小グループで言葉を検討するよう働きかける。

○検討した結果は表計算ソフトに記録するように指示する。

○言葉の掲載順も五十音順や出席番号順にするのではなく、学級で工夫できるようにする。

○語彙の説明を書くためのモデルを示す。

○語彙の説明や使われた場面について書く際には文章入力ソフト (Google ドキュメントなど) を用いる。

**ICT活用の利点①**

共同編集によって相互に閲覧できるようにしているため、ICT端末で集めた言葉を確認しながら検討する。また、表計算ソフトにグループで出た意見を入力することで、意見交流を円滑にする。

2

**【語彙を選ぶ観点】**

- ・この言葉は〇〇さんが使いそう。
- ・この言葉は自分も使いたい。
- ・この言葉は言われたい。
- ・この言葉を使えるような人になりたい。
- ・この言葉に惹きつけられる。
- ・この言葉の響きがいい。
- ・この言葉で表現したい。
- ・この言葉がとにかく気になる。

**【知識・技能①】**

**観察・ICT端末**

- ・ここでは集めた語彙に関心をもって読みながら、なおかつ、他者が選んだ語彙に対して考えを持っているかをコメントの内容で確認する。

○他者の意見を参考にして、語彙集に加えたい言葉を選ぶ。

○語彙の説明や使われた場面について書く。

編 P36 指導計画作成の留意事項(8)

○第一稿を互いに読み合い、コメントし合う。

○コメントを受けて、自分の選んだ語彙の説明を整える。

○意見交流の仕方  
○よりよく伝わる表現の工夫

編 P35 指導計画作成の留意事項(2)

○推敲の観点を示してから読むようにする。

○文章入力ソフト (Google ドキュメントなど) のコメント機能を使用することも考えられる。

3

**ICT活用の利点①**

文章入力ソフトを用いることで、教師が進捗状況を把握することができる。また、書くことが苦手な生徒の中でも、タイピングでなら書けるという生徒が一定数いることも想定される。

**【思考・判断・表現①】**

**観察・ワークシート**

- ・ここでは、読み手の立場に立った表現に気を付けながら、自分の文章を整えているかを確認する。

**【主体的に学習に取り組む態度】**

**観察**

- ・ここでは、読み手に伝わる表現の工夫をしようと粘り強く取り組んでいるかを確認する。

4	<p>○まとめた語彙集を読み合い、感想を交流する。</p>	<p>○意見交流の仕方 ○柔らかな伝え方</p>	<p>○意見を共有するためのソフト(オクリンクプラスなど)を用いて、グループでの意見を可視化する。</p>
	<p><b>事例のポイント②</b> 成果物として、語彙集を配付することで、学習に実感がもてるようにする。</p>	<p><b>【知識・技能①】</b> <b>観察</b> ・語彙集を読むことで、自分の知らなかった言葉や使いたい言葉など気が得られているかを確認する。</p>	
<p><b>ICT活用の利点②</b> 大型モニターで意見を映すことで、リアルタイムでグループの意見を共有することができる。また、発表を円滑に進めることもできる。</p>			
<p>○単元の振り返りをする。</p>	<p>○振り返りの仕方</p>		

## 7 本時の学習指導 (本時 4 / 4 時)

### (1) 目標

- 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。 〈知識及び技能〉 (1)エ

### (2) 評価規準

- 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【知識・技能】

### (3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時の学習を確認する。	○学習の見通し	○前回までに取り組んだことを確認する。	2
「言葉」についての自分の考えを深めよう。		<p><b>事例のポイント①</b> 学級の語彙集とすることで、他者の言葉にも触れ、語感や語彙を豊かにする。</p> <p>○完成した語彙集を提示することで、生徒が学習の成果を実感できるようにする。</p> <p>○学級内の誰によって編集されたかではなく、あくまでも集めた言葉の説明や場面に注目するよう働きかける。</p> <p>○語彙集を読む時間をしっかりと確保し、生徒が読み浸ることを経験できるようにする。</p>	15
2 語彙集を読む。	○語彙を増すこと		
<p>〈語彙の例〉 大人／長ける／巧み／ならでは／アイドル／寛大／控えめに言って／誠実／的確 など</p> <p>〈語彙の説明例〉 <b>【大人】</b> 〈使い方〉 「異なる意見を取り入れたのは大人な判断だった。」 〈使われた場面〉 学級会での先生の最後の話の中で。 〈言葉に対する考え〉 「大人」と言われると少しくすぐったいような気がするが、悪い気はしない。使うより、使われた言葉。</p>			

3 感想を交流する際の観点を捉える。	○交流の観点	○感想交流は最終的に全体で共有することをあらかじめ説明しておく。	2	
4 感想を交流する。	○交流の仕方 ○語彙を豊かにすること	○4人グループをつくり、感想を交流する。 ○交流の機会を確保するために5人以上のグループにならないように留意する。	12	
<p>〈期待される意見交流の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この言葉を選ぶ視点は自分にはなかった。</li> <li>・一見、ほめ言葉には思えない言葉でも、使う場面や使う人によってほめ言葉になり得る。</li> <li>・この言葉を選んだ感覚は面白い。</li> <li>・自分でもこの言葉を使える人になりたい。</li> <li>・人をほめる言葉がこんなにも多くあったなんて。</li> <li>・自分達で集めたものが、しっかりとした形になったことが嬉しい。</li> </ul>		<p>○グループで出た意見はICT端末のソフト（オクリンクプラスなど）を用いて記録し、リアルタイムで教室のモニターに反映する。</p> <div data-bbox="916 689 1350 828" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ICT活用の利点②</b> 他のグループの意見を交流段階から共有できる。</p> </div>		
5 グループで出た意見を共有する。	○共有の仕方	<p>評価規準</p> <p>【知識・技能①】</p> <p><b>観察</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここではこれまでの自身の言葉に対する考えが一連の活動を通して、広がったり、深まったりして変容があったか確認する。</li> </ul> <p>〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で共有した事柄に再度目を向けるよう助言し、自分の言葉に対する見方がどのように変容したか気付けるようにする。</li> </ul>	10	
<p><b>事例のポイント③</b></p> <p>グループで出た意見は意見を共有できるソフトを用いて、可視化し、発表を円滑にする。</p>				
6 本時のまとめをする。	○自分の考えのまとめ方		<p>○本時の学習を通して、気付いたことや考えたことを振り返るよう働きかけ、自分自身の言葉の感覚や考えの変容が自覚できるように促す。</p>	3
<p>日常生活の中に、他者を評価する言葉は無数に存在する。そうした言葉に気付く目を持つことで、自分自身の言葉に対する感覚や理解をさらに深めることができる。</p>				
7 学習の振り返りをする。	○振り返りの仕方		6	
<p>〈期待される生徒の振り返り〉</p> <p>今回の単元を通して、人をほめる言葉がこんなにも多く存在することを知って驚いた。それと同時に、自分自身がどれだけ言葉を知らなかったのかもわかった。私たちの身の回りの言葉に目を向けることで、私たち自身の生活が豊かになると思う。今後は授業で学んだことを活かして、自分の言葉を豊かにしていきたい。</p>				